

R8. 8. 21	令和8年度	資料 8
佐世保市歯・口腔の健康づくり推進協議会		

令和 7 年度受託研究報告書

研究課題：歯周病検診の実施及び評価と佐世保市の
歯・口腔の健康づくりに関する研究

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔保健学

令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日

背景

佐世保市では、市民の口腔内状況の把握と改善のため、昭和 60 年 4 月から佐世保市歯科医師会の協力のもと、成人病巡回健診に併せた歯科健診を実施していた。平成 12 年度からは保健所内において、平成 15 年度からは地域の歯科医院において歯科健診が受けられるようにと継続してきた。離島（黒島、高島、宇久島）においても、島ごとに実施する総合健診の日程に合わせて歯科健診を継続してきた。

歯科口腔保健の推進に関する法律が平成 23 年に制定され、長崎県はそれに先立ち歯・口腔の健康づくり推進条例を平成 21 年に制定した。佐世保市でも平成 24 年に佐世保市歯・口腔の健康づくり推進条例を制定し、歯科健診を行うことで市民の口腔状況の把握、保健指導と歯科医院への受診勧奨の推進に努めてきた。

令和 4 年度に「第 1 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」の最終評価を行い、令和 5 年度に「第 2 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画」を策定し、令和 6 年度から実施している。

方法

令和 7 年度も例年通り、佐世保市保健福祉センター所内での歯科保健相談および成人歯科健診、佐世保市が抱える離島での成人歯科健診を実施した。また、佐世保市歯科医師会への委託による佐世保市成人歯科健診（節目歯科健診を含む）も実施した。対象は、高校生を除く 18 歳以上のすべての市民であった。

節目年齢の満 30 歳にも無料ハガキの送付を行い、満 30 歳・満 40 歳・満 50 歳・満 60 歳に該当する 10,394 名※の市民には、歯科健診を無料で委託歯科医療機関にて受けることができるようにした。

妊産婦歯科健診についても、妊婦・産後 1 年未満を対象に無料で歯科健診を受けることができるように母子健康手帳の交付時に無料券を渡した。

さらに、若年者における歯周病の状況を把握するために、令和 7 年度は長崎県立大学の学生を対象に 2 日間の歯周病検診を実施し、成人歯科検診受診者として解析した。

※令和 7 年 10 月 1 日における年齢別推計人口から算出した。

結果

令和7年4月1日から令和8年3月31日までの成人歯科健診受診者のうち、長崎大学でのデータ分析について同意が得られた1,288名について分析を行った。以下の3つの項目にわけて結果を示す。

1. 1,288名の成人歯科健診の全体の受診状況について
2. 成人歯科健診（節目健診を含む）の状況について
3. 妊産婦歯科健診の状況について

表に示す年齢階級の定義は以下の通りである。

20歳：15歳から24歳	30歳：25歳から34歳	40歳：35歳から44歳
50歳：45歳から54歳	60歳：55歳から64歳	70歳：65歳から74歳
80歳：75歳から84歳	90歳：85歳以上	

○佐世保市の歯科健診 全体の概要

【受診目的による長崎大学でのデータ分析】

1. 18歳以上の歯科健診受診者のうち長崎大学にて分析を行うことについて同意が得られた1,288名

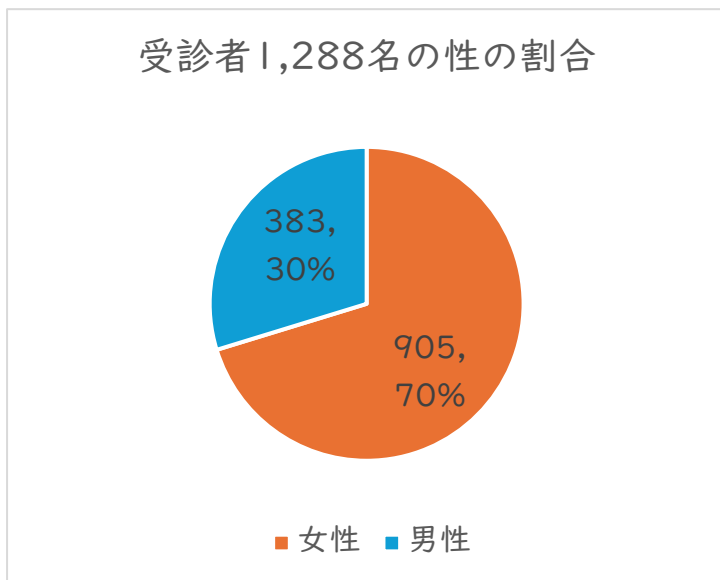
2. 成人歯科健診 935名 (73%)
健診先:委託(市内歯科医院)・所内・
離島(黒島、高島、宇久)
長崎県立大学における若年者健診

節目健診 511名
(満30・満40・満50・満60歳)
無料受診ハガキ勸奨

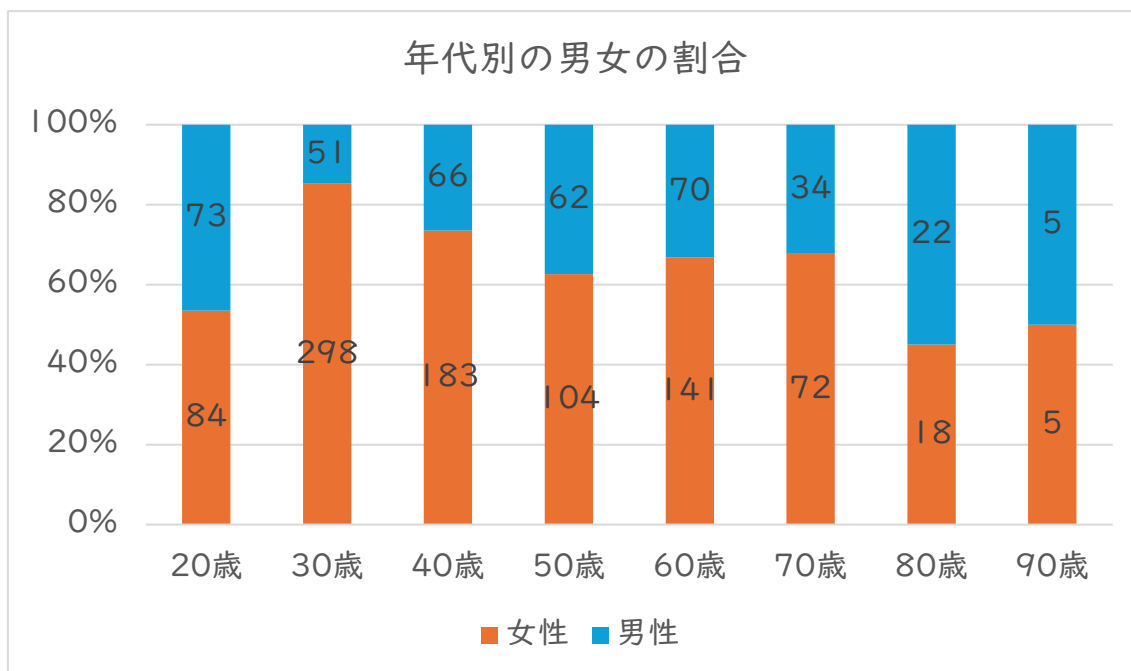
3. 妊産婦歯科健診 353名 (27%)
健診先:委託(市内歯科医院)・所内

1. 1,228名の成人歯科健診の全体の受診状況

① 性別



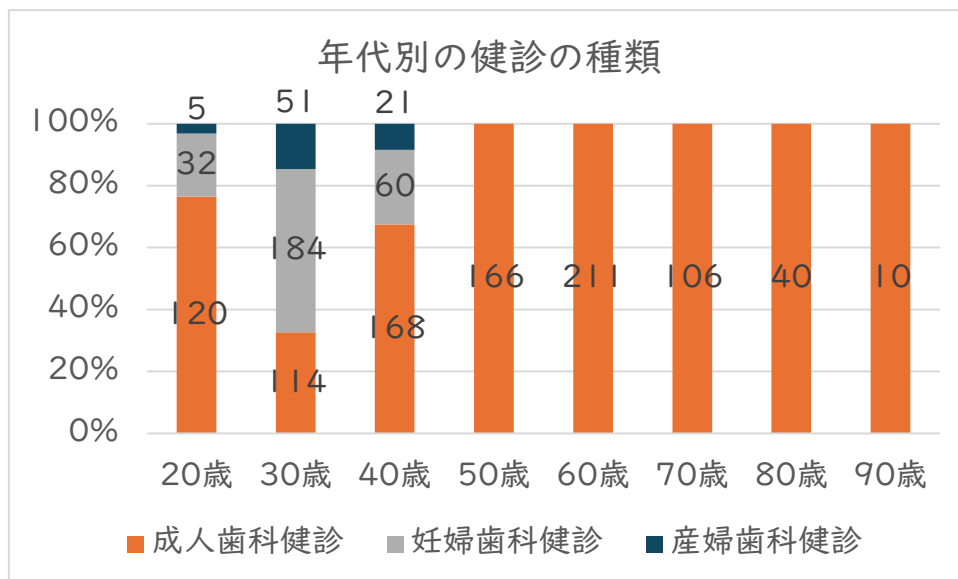
数字は人数を示す



最年少は18歳、最高齢は98歳であった。

30歳から70歳の男性の割合が低く、40%未満であった。

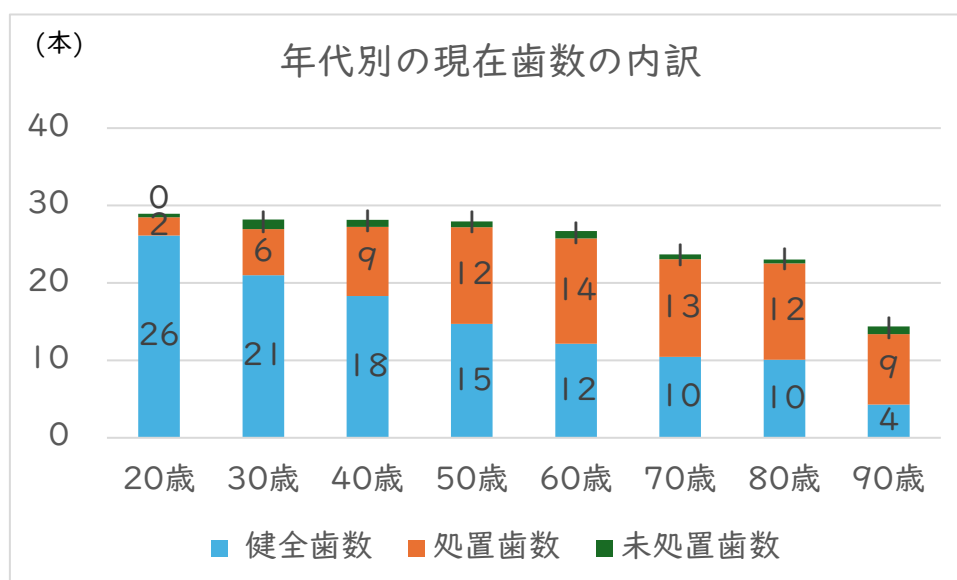
③年代別健診の種類



数字は人数を示す

成人歯科健診受診者の割合は全体の 73% (935 名) であり、妊婦歯科健診の割合は 21% (276 名) であり、産婦歯科健診の割合は 6% (77 名) であった。

④年代別の現在歯の状況

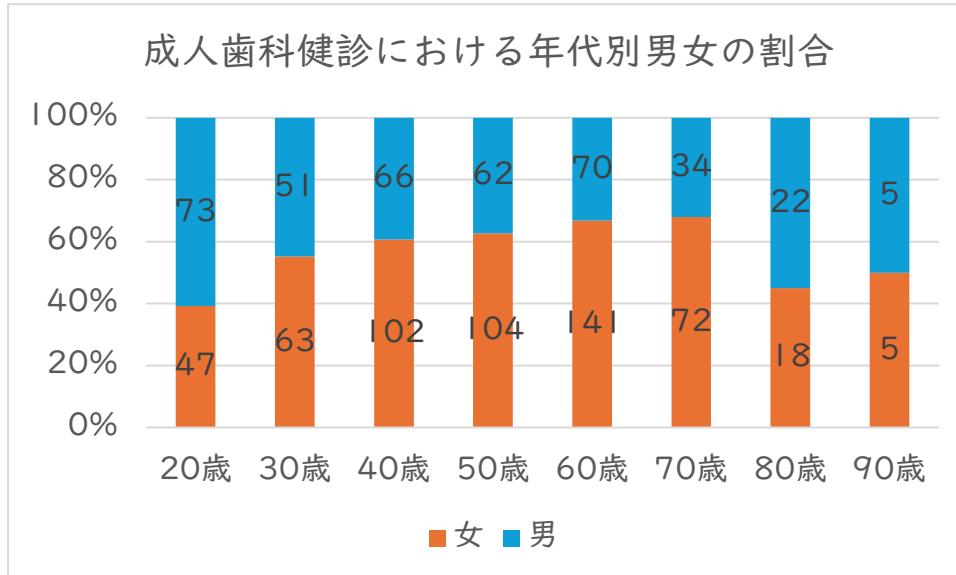


数値は平均の本数を示す

年齢が高くなるにつれて、現在歯数は減少し、処置歯数の増加がみられた。未処置歯数の平均は、30 歳以降 1 本と変化がみられなかった。

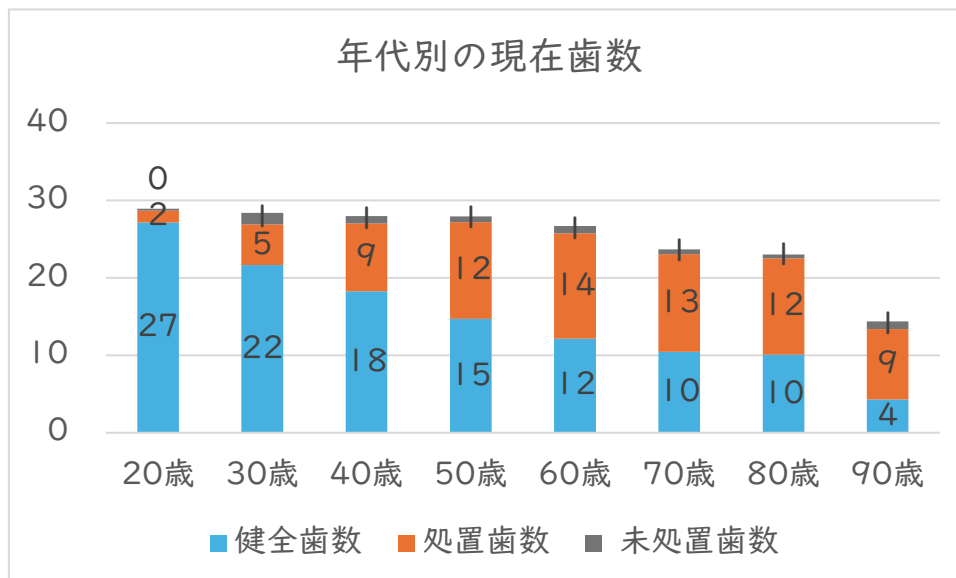
2. 成人歯科健診について

①年代別の男女の割合



数値は人数を示す

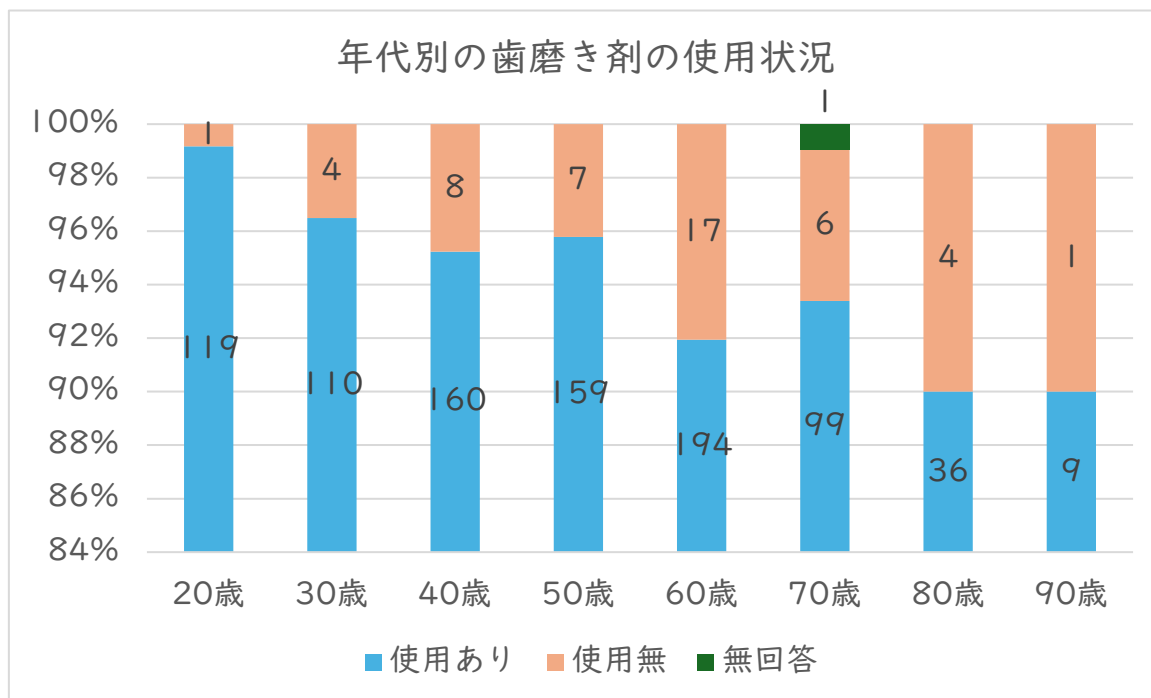
成人歯科健診受診者は 935 名でそのうち男性受診者の割合は 41%であった。



数値は平均の歯の本数を示す

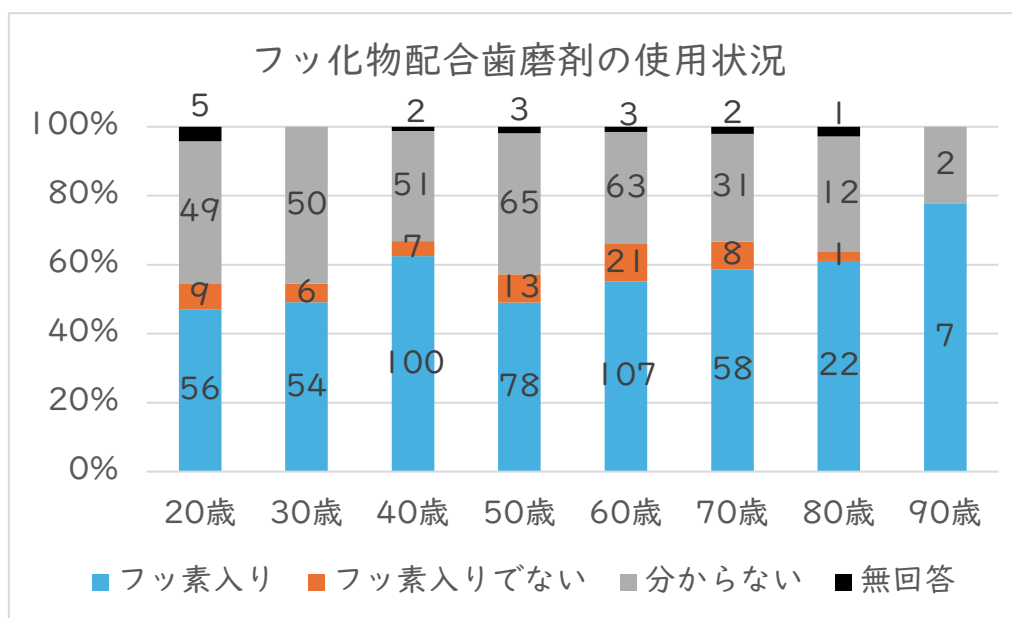
一人当たりの未処置歯数の平均は、30 歳以降 1 本であった。

③年代別の歯磨き剤の使用状況



数値は人数を示す

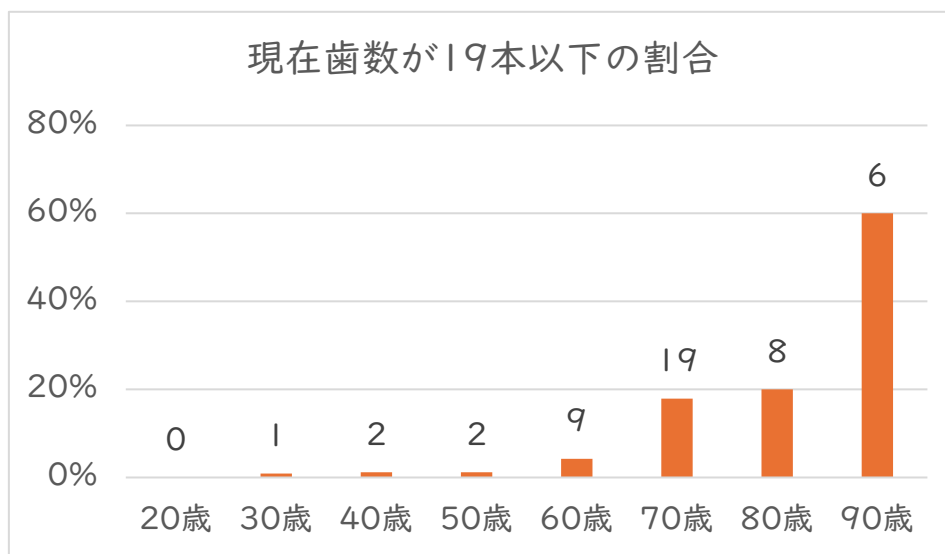
④歯磨き剤を使用すると回答した者のうちのフッ化物配合歯磨剤の使用状況



数値は人数を示す

20歳のほとんどすべての者が歯磨き剤を使用する習慣であると回答したが、そのうちフッ化物配合歯磨剤を使用していると回答した者は50%程度であった。

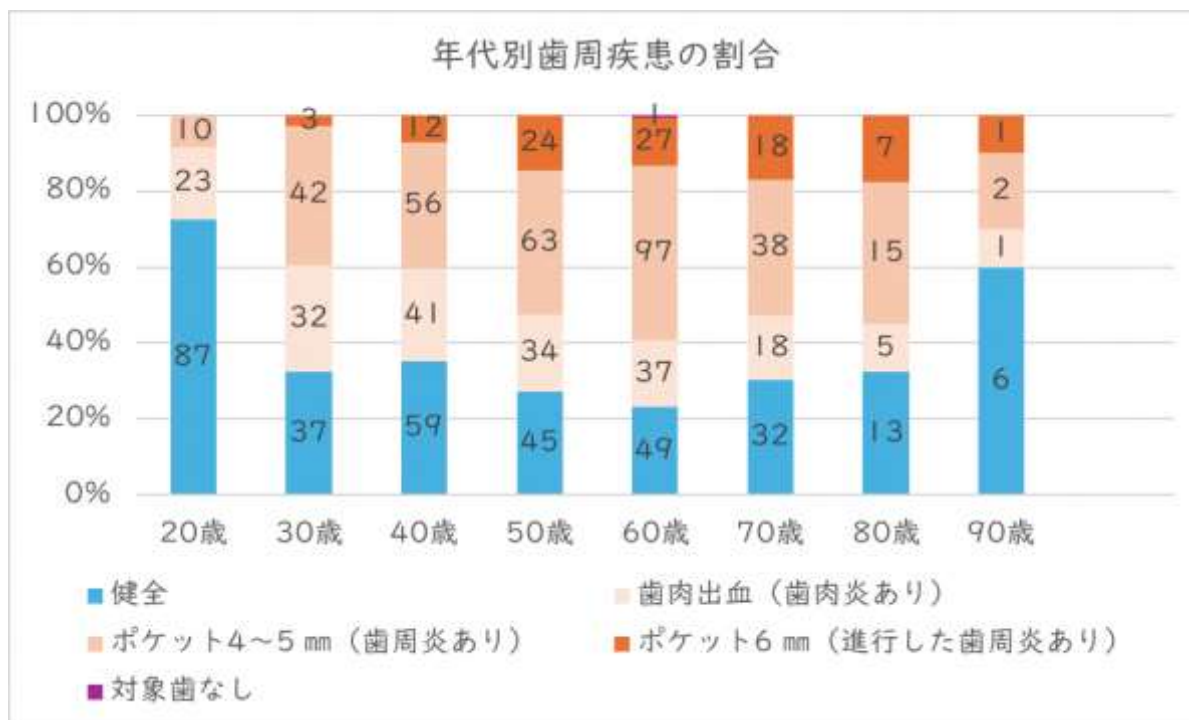
⑤年代別の19本以下の者の割合



数値は人数を示す

現在歯数が19本以下の者の割合は、60歳から増加した。

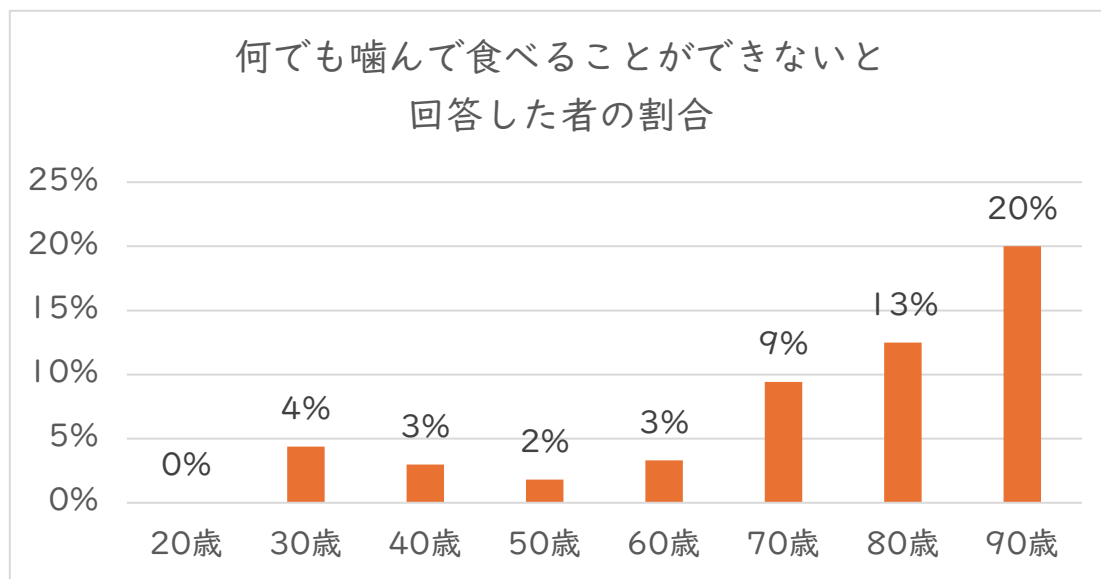
⑥成人歯科健診における年代別の歯周疾患（歯肉炎と歯周炎）の状況



数値は人数を示す

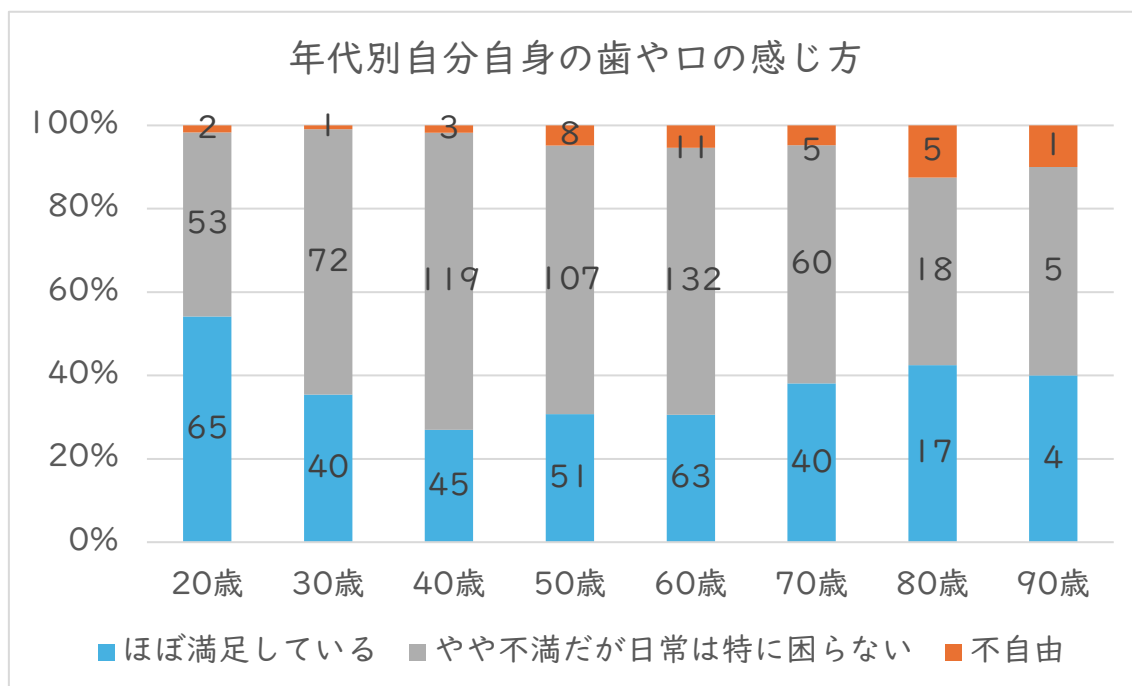
30歳から80歳にかけて、60%を超える割合で歯周炎が認められ、進行した歯周炎は30歳以降で認められ、80歳にかけて増加が認められた。

⑦何でも噛んで食べることができないと回答した者の割合



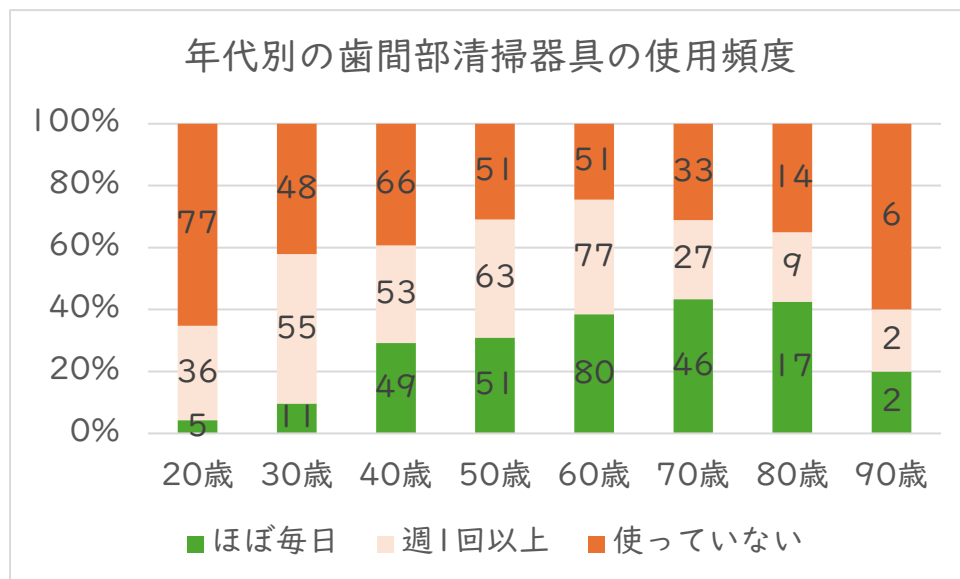
30歳から何でも噛むことができないと感じている者がおり、その割合は50歳以降年齢があがるにつれて増加が認められた。

⑧歯や口の状態についてどのように感じているかについて



数値は人数を示す
5名の無回答を除外して割合を算出した
20歳の50%に自分自身の歯や口に不満を感じていた。

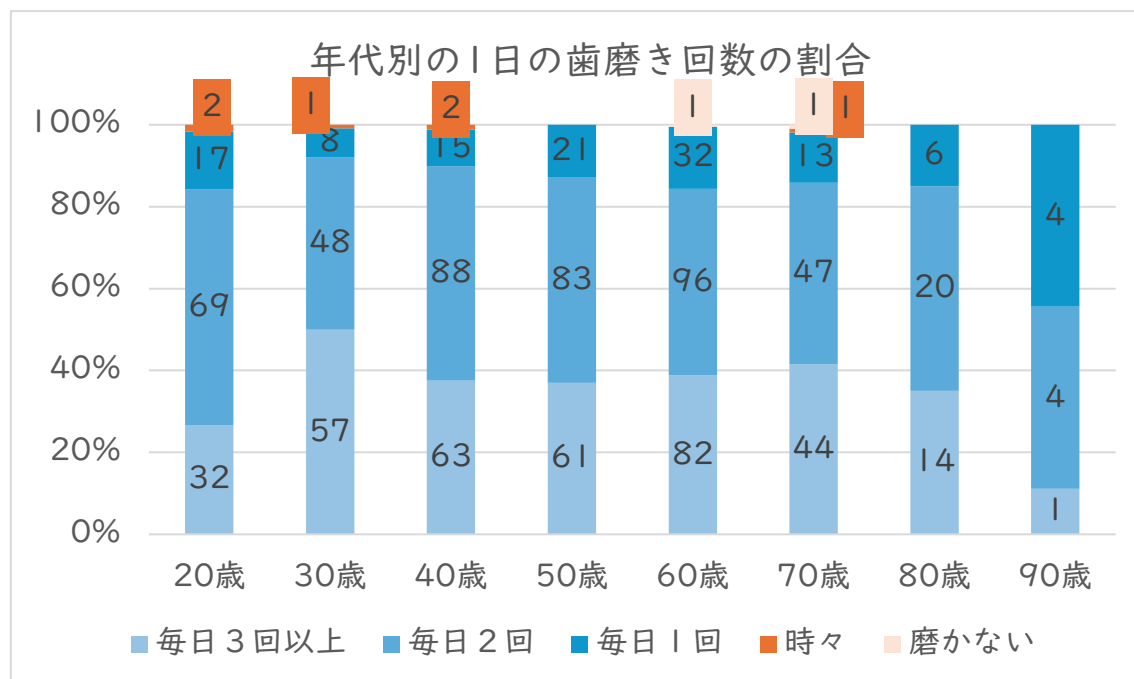
⑨年代別の歯間部清掃器具の使用頻度



数値は人数を示す

20歳で歯間部清掃器具を毎日使用する者の割合は2%であり、年齢が上がるにつれてその割合は増加した。70歳と80歳でピークとなり43%の割合であった。

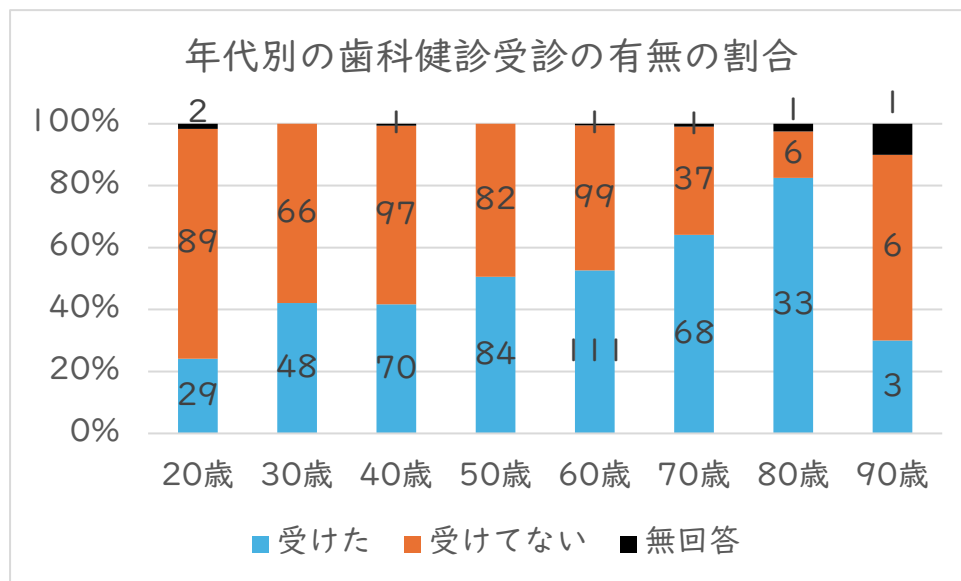
⑩年代別の1日の歯磨き回数



数値は人数を示す

99%の者（935人中927人）が毎日磨く習慣があった。

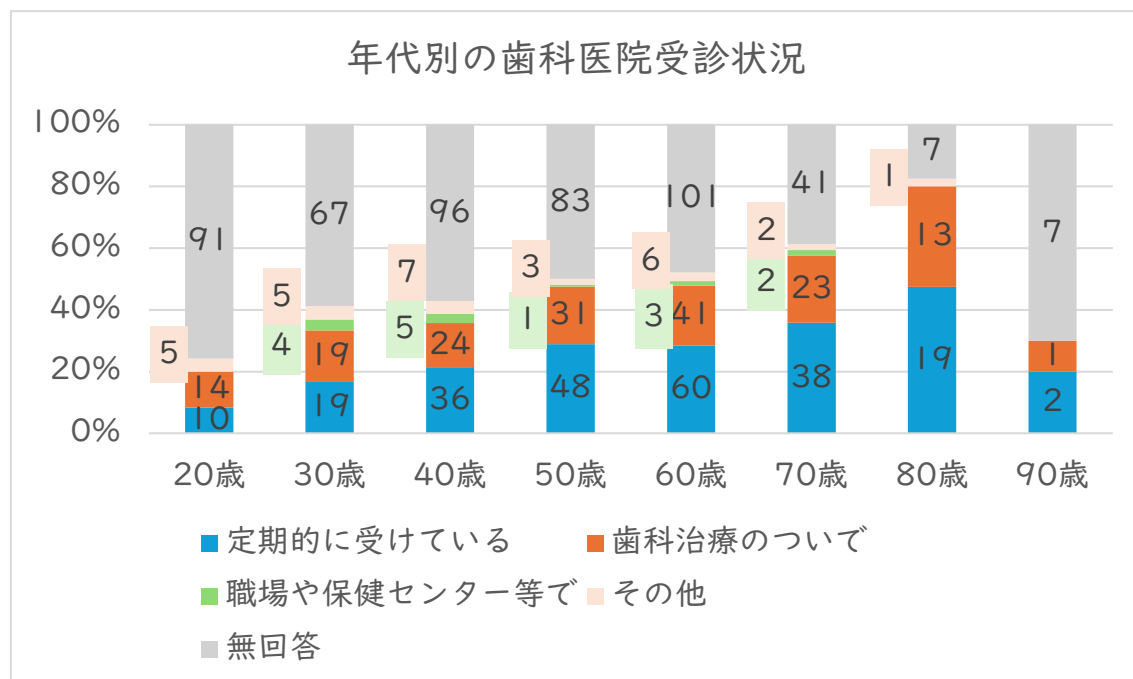
⑪ここ1年間における歯科健診有無の割合



数値は人数を示す

歯科健診受診の割合は、20歳で24%であったものが徐々に増加し、80歳代では3倍の83%であった。

⑫ここ1年間での歯科医院の受診状況

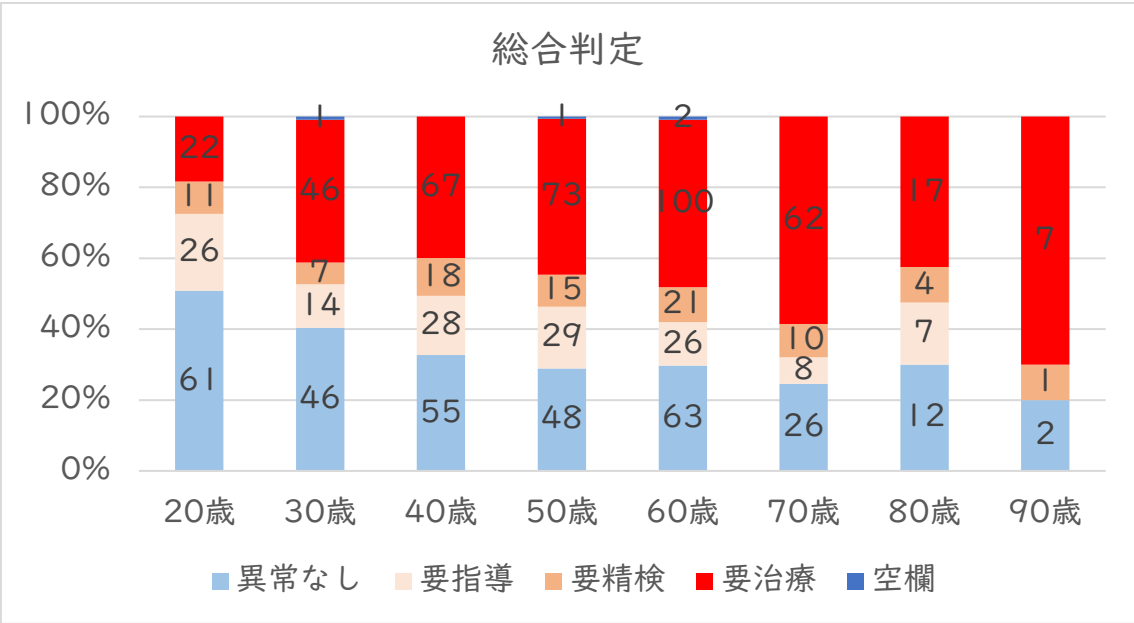


数値は人数を示す

第2次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画において「過去1年間における歯科健診を受けた者の割合」が65%を目標にしている。令和7年度における歯科健診を受けた者の割合は、「定期的に受けている」「歯科治療のついで」と「職場や保健センター等で」を併せると44%（935名中413名）であった。望ましい歯科医院の受診状況は定期受診であるが、全体の25%（232名）であった。

この質問項目についての無回答は53%（493名）であった。

⑬成人歯科健診の結果



数値は人数を示す

成人歯科健診の結果、全体のうち異常のない者の割合は33%（313名）であり、要指導は15%（138名）、要精検は9%（87名）、要治療は42%（394名）であった。

⑭満30歳、満40歳、満50歳と満60歳を対象にした成人歯科健診の結果

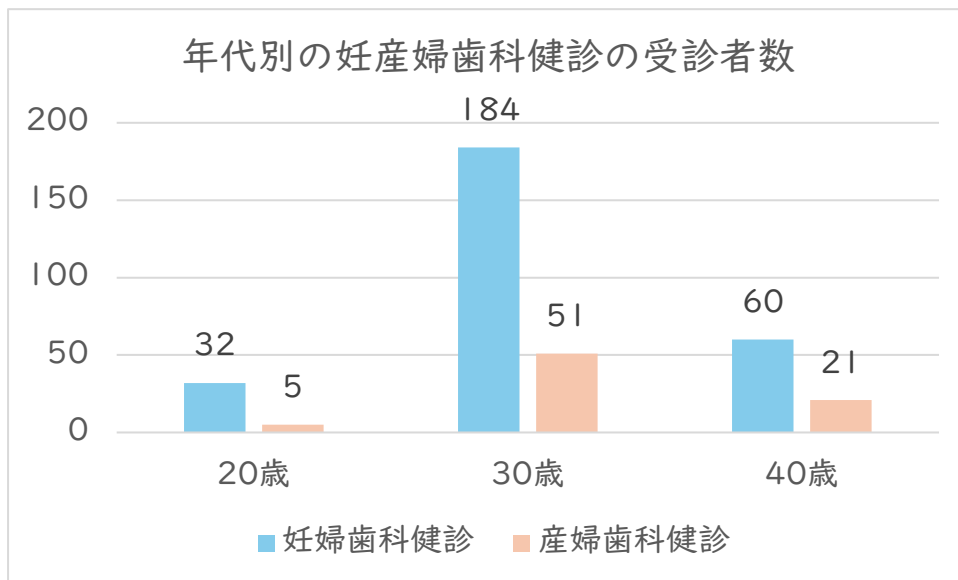
	佐世保市人口※①	受診者数②	人口に対する受診者の割合 ②÷①×100
満30歳	1853	118	6%
満40歳	2481	129	5%
満50歳	3176	119	4%
満60歳	2884	145	5%
合計	10394	511	5%

※令和7年10月1日現在

節目健診の受診者の割合は、佐世保市人口の5%であった。

3. 妊産婦健診について

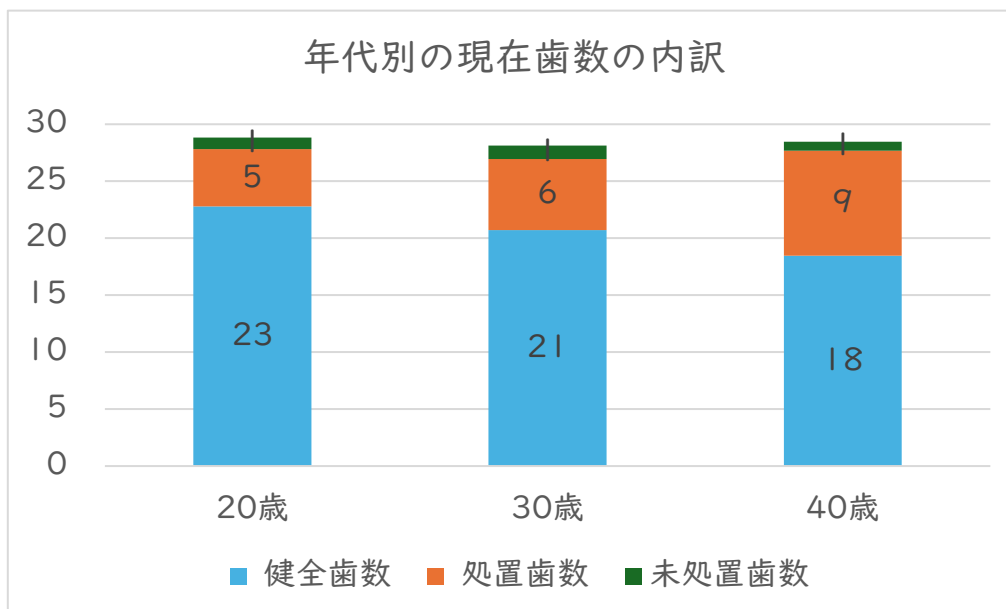
①妊産婦の歯科健診受診者数



数値は人数を示す

妊婦歯科健診受診者の合計は 276 名であり、産婦歯科健診受診者は 77 名であった。
令和 7 年の歯科健診受診者数の 27% を占めた。

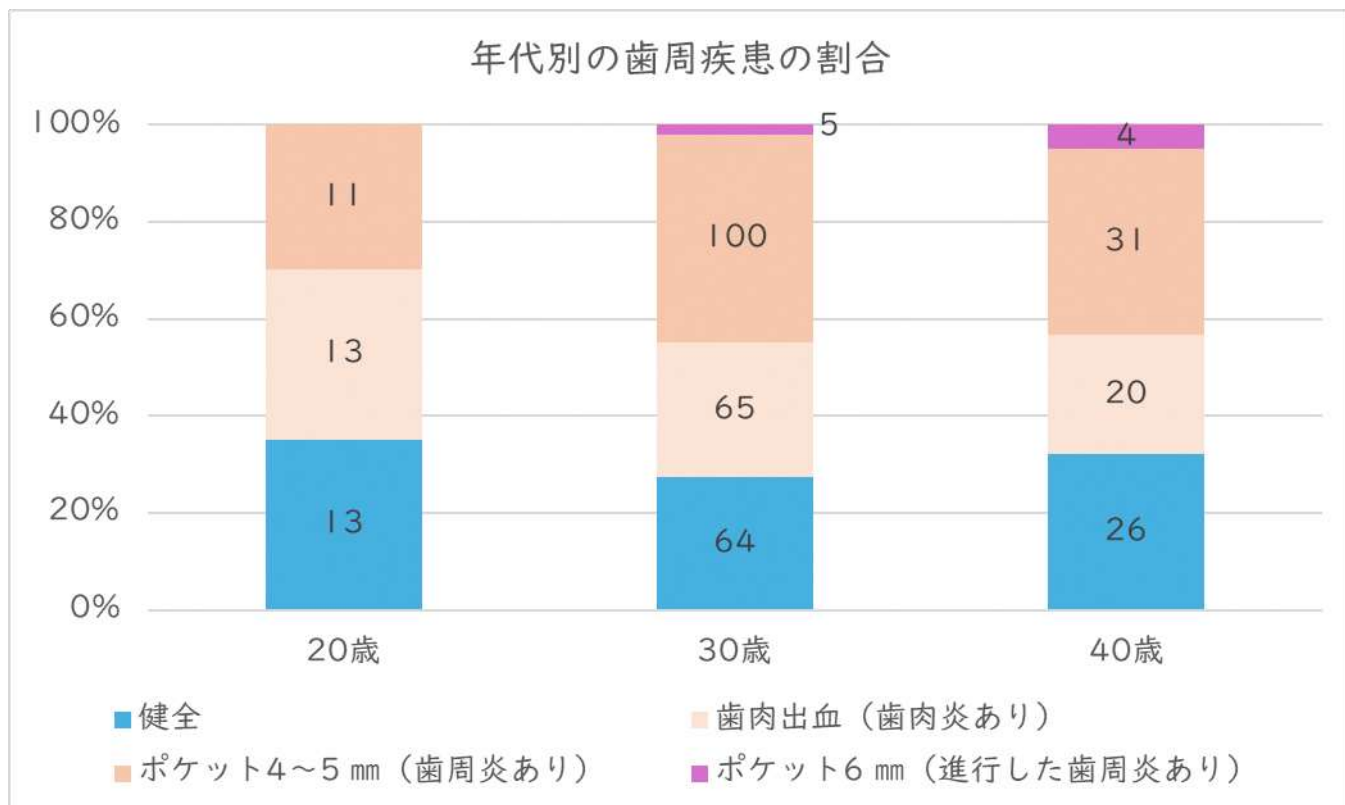
②妊産婦の現在歯の状況



数値は平均の本数を示す

現在歯数の減少は見られず、未処置歯数も 1 本であったが、健全歯数が年齢とともに減少した。

②妊産婦健診における歯周疾患（歯肉炎と歯周炎）の有病状況

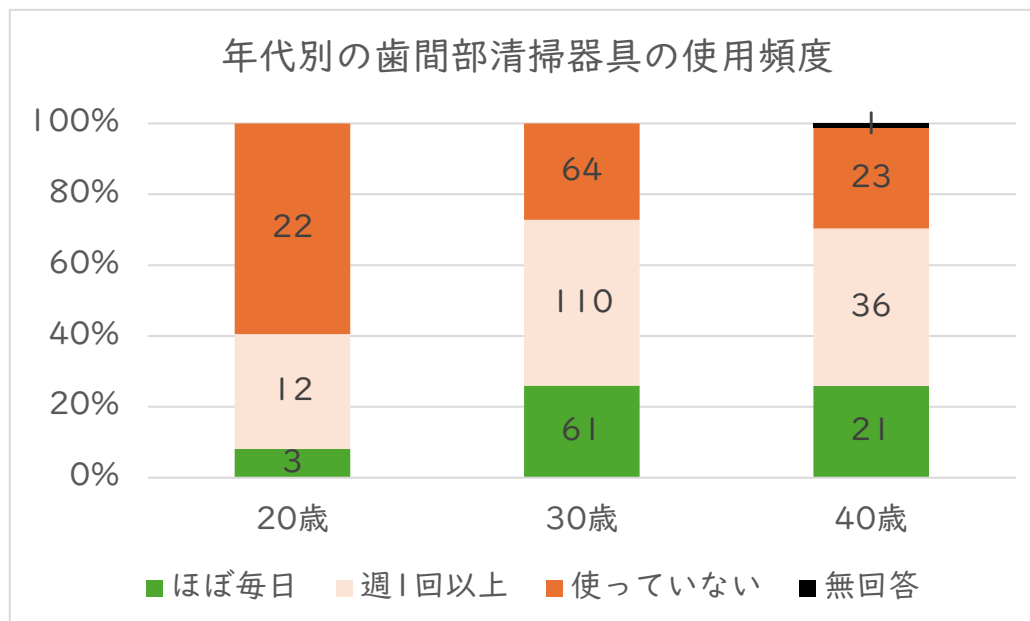


数値は人数を示す

30歳に1名の測定結果がなく、除外して割合を求めた。

妊産婦歯科健診受診者における歯周疾患の有病状況は、健全が29%（103名）、歯肉炎ありの割合が28%（98名）、歯周炎ありの割合が40%（142名）、進行した歯周炎ありの割合が3%（9名）であった。

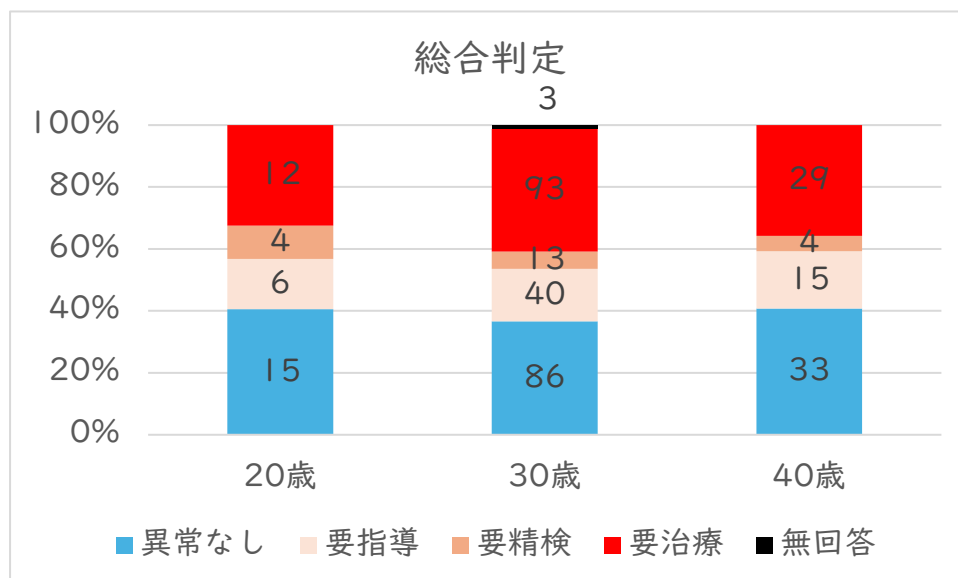
③妊産婦健診における歯間部清掃器具の使用頻度



数値は人数を示す

成人歯科健診結果と同様に、歯間部清掃器具を毎日使用する者の割合は低く、20歳で8%、30歳で26%、40歳で26%、全体の24%であった。

④妊産婦健診の結果



数値は人数を示す

妊産婦健診の結果、全体のうち異常のない者の割合は38%（134名）であり、要指導は17%（61名）、要精検は6%（21名）、要治療は38%（134名）であった。

結果のまとめ

佐世保市は、令和 6 年度から満 30 歳の市民を対象に追加して、歯周病検診の無料受診勧奨はがきを送付した。満 30 歳、40 歳、50 歳と 60 歳の受診者数の割合は対象となる人口の 5%であり、昨年と同様の受診の割合であった。節目健診受診者は成人歯科健診受診者の割合の 55%であった。30 歳から 70 歳の男性の受診率が低く、15～32%であった。成人歯科健診ならびに妊産婦歯科健診の結果、異常がない者の割合は 35%（448 名）、要指導は 15%（199 名）、要精検は 8%（108 名）、要治療は 41%（527 名）であった。要治療の内訳を表 1 に示す。

表 1

	人数	割合 (%)
むし歯	366	69.8
歯槽膿漏の進行あり	71	13.5
歯槽膿漏の兆候あり	239	45.6
義歯・ブリッジの要調整／要新製	43	8.2
口の粘膜・軟組織・骨	2	0.4
歯並び・かみ合わせ	5	1.0
顎の関節	1	0.2

重複あり

第 2 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画における指標とその目標値と令和 7 年度の 935 名の成人歯科健診結果を表 2 に示す。指標の年齢に併せて R7 年度の結果を算出した。

表 2

目標	指標	目標値	R7 年度
歯・口腔に関する健康格差の縮小	40 歳以上における自分の歯が 19 本以下の者の割合	9%	6% (703 名中 45 名)
未処置のむし歯を有する者の減少	18 歳以上における未処置歯を有する者の割合	16%	32% (935 名中 297 名)
歯肉に炎症所見を有する者の減少	18 歳から 30 歳代(30～39 歳)における歯肉に炎症所見を有する者の割合	57%	23% (251 名中 57 名)
歯周病を有する者の減少	40 歳以上における歯周炎を有する者の割合	44%	52% (684 名中 357 名)
より多くの自分の歯を有する高齢者の増加	80 歳(75 - 84 歳)で 20 本以上の自分の歯を有する者の割合	70%	80% (40 名中 32 名)
よく噛んで食べることができる者の増加	50 歳以上における咀嚼良好者の割合	80%	92% (506 名中 465 名)
歯科健診の受診者の増加	過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合	65%	48% (935 名中 446 名)

考察

第 2 次佐世保市歯・口腔の健康づくり推進計画における指標の目標値を達成できなかった項目は、「18 歳以上における未処置歯を有する者の割合」、「40 歳以上における歯周炎を有する者の割合」と「過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合」の 3 つであった。

「18 歳以上における未処置歯を有する者の割合」の目標値が 16%に対して R7 年度の結果は 32%であった。未処置歯数の範囲は 1～19 本であった。1 日 2 回のフッ化物配合歯磨剤の使用によりう蝕予防効果を期待できることが知られているが、フッ化物配合歯磨剤を使用していることを把握している者の割合は 52%（935 名中 482 名）であった。このことから、成人歯科健診時におけるフッ化物配合歯磨剤の使用方法について保健指導の必要性が感じられた。

「40 歳以上における歯周炎を有する者の割合」については、目標値が 44%に対して、R7 年度の結果は 52%であった。歯周炎に対する対策では、プラークコントロールが非常に重要である。1 日 1 回以上のブラッシング習慣をもつ者の割合は 99%であった。一方、歯間部清掃器具をほぼ毎日使用する習慣をもつ者の割合は低く、30%であった。このことから、成人歯科健診時における歯間部清掃器具の使用方法についても保健指導の必要性が感じられた。

「過去 1 年間に歯科健診を受診した者の割合」については、目標値が 65%に対して R7 年度の結果は 48%であった。目標達成までに昨年とほぼ同じ 17 ポイント増加させる必要がある。引き続き、節目健診や妊産婦健診の受診者に丁寧な保健指導を行い、かかりつけ歯科医院へつなぐ地道な努力を継続する必要があると考えられた。